

地獄：一時的な苦しみの場所それとも永遠の刑罰の場所？

私たちは死ぬとどうなるのでしょうか？

Copyright©2011 Mormon Outreach Ministries, Sydney

福音的クリスチャンと末日聖徒（「末日聖徒イエス・キリスト教会」会員）は両者とも「大きな白い御座の裁き」を信じています（ヨハネの黙示録20:11-15）。すべての人が神の裁きの御座の前に立つのです。ひとりひとりの人が自分自身の行ったことに対して神に申し開きをしなければなりません（ローマ人への手紙14:10-12、コリント第二5:10）。聖書では地獄は「永遠の刑罰の場所」と教えられていますが、モルモン教会では、地獄自体は機関として永遠に存在するが、（悪人の霊が）最後の裁きの前に一時的にとどまり苦しみを受ける「霊の獄」の状態、限られた数の人だけが永遠に「地獄」にとどまると教えられています（モルモン教会版『聖書』聖句ガイド、1995年、117頁）。モルモン教理の「地獄」は聖書で教えられている地獄と同じでしょうか？ 地獄についての真理を調べるために、モルモン教会正典と公式の教理を学んで、それらを聖書の教えと比較してみました。（1）私たちの死後の世界、（2）モルモン教理の「地獄」、最後に（3）『モルモン書』は現在のモルモン教会公式の教義を載せているかどうか検討してみることにしましょう。（「キリストの福音を聞かずに死んだ人に『セカンドチャンス』があるのか？」を参照）

I 私たちは死ぬとどうなるのでしょうか？

モルモン教会は死後私たちの霊は霊界に行くと考えていますが、霊界には「パラダイス」と「霊の獄」と二つの区分すなわち状態があることになっています（『福音の原則』2009年、第41章—モルモン教会の公式の学習テキスト）。モルモン教理の「パラダイス」は一時的な場所で義の人々の魂が死後に行く霊界の区分です。「霊の獄」は（1）まだモルモン教の「福音」（モルモン教会のすべての教えや、律法、儀式を含む）を受け入れていない霊と（2）地上や霊の獄でモルモン教の福音を述べられながらも拒んだ人の霊のためだそうです（『福音の原則』第41章）。霊界にいる末日聖徒の霊は「昇栄」または神々となるため奉仕の業に従事しているそうです（『福音の原則』243-244頁、『教義と聖約』138:30—モルモン教会正典の一部）。「霊の獄」にいる霊にモルモン教の「福音」を宣べ伝えて宣教の奉仕に従事しているそうです。霊がモルモン教の「福音」を受け入れ、また地上にいる末日聖徒が身代わりにパプテズマヤ（神権聖任、エンダウメント、結び固め）といった神殿の儀式を受け入れると、霊は「霊の獄」を去って「パラダイス」へ入るといことです（*Doctrine & Covenants Student Manual*, p.446, 447—モルモン教会公式学習テキスト、モルモン教会版『聖書』聖句ガイド、253頁）。

モルモン教会は最終的な運命には四つの階級があることを教えています。最後の裁きで、三つに区分される天国—日の栄えの王国（栄光の最高の階級）、月の栄えの王国（第二の階級）、星の栄えの王国（最も低い階級）—のいずれかを受け継ぐということで、「滅びの子」のみが外の暗闇に行くと考えています（『福音の原則』272-273頁）（MOMサイトの「天国」を参照）。

これとは対照的に、聖書では最終的な運命は「永遠の天国」か「永遠の地獄」の二つしかないことを教えています（ダニエル12:2、マタイ25:31-46、テサロニケ第二1:5-9）。イエスご自身が二つの運命を教えました：「天の御国」または「外の暗闇」（マタイ8:11-12）、神との「永遠の命」または「永遠の刑罰」（マタイ25:46）、「神の国」または「永遠に消えない地獄の火」（マルコ9:47）、「永遠の命」または「滅び」（ヨハネ3:16）¹。イエスは天国についてよりも地獄について多くを述べています（マタイ10:28、13:40、25:41b）。

第二に、聖書は新約聖書で啓示されたキリストにあって死んだ者の魂は、直ちに主の御前に行き主との交わりを享受すると教えています（ルカ23:43、ピリピ人への手紙1:3、コリント第二5:8）²。信者の裁きは自分の行ったことに応じて様々な報いを授かるもので、永遠に刑罰を受けるものではありません（ヨハネ5:24、ルカ19:17、19、コリント第二5:10、ヨハネの黙示録4:10、11）。

新約聖書にあるキリストなしに死ぬ者の魂は直ちに永遠の刑罰の状態に行きます（ルカ16:24-26）。こういった人の体は最終的な裁きの日まで復活することはありません（ヨハネ5:28-29、使徒行伝24:15）³。裁きの日に体が復活されて魂と一体になり、大きな白い御座の前に立ち、（キリストなしに死んだ者は）火の湖へ投げ込まれ永遠の刑罰を経験します（黙示録20:11-15）。これには永遠の命の無償の賜物を拒否したり、キリストの義を信頼することなく神の完全さの要求を自分で立てようと努める道徳的で立派な非キリスト教徒も含まれます。そのような人には、天の父からの永遠の分離が待ち受けています。

II 地獄の真理とはなんなのでしょうか？

モルモン教会は三つの意味で地獄を定義しています。

(1) **最後の裁きの前に「現世において不従順であった人々が霊界で一時的にとどまる場所」**（モルモン教『聖句ガイド』117頁、『福音の原則』第41章）：この意味では地獄には終わりがあります。霊的な負債を支払った後、大部分は星の栄えの

王国に行くそうです。

(2) **最高の階級の王国に行くことができなかったことを悔やむ経験** (*The Life and Teachings of Jesus Christ and His Apostles*, p.66-モルモン教会公式学習テキスト) : モルモン教の永遠の刑罰は永遠に続く罰ではなく「無窮 (むきゆう) の神」 (永遠の神) が下す罰というものです (『教義と聖約』19:4-12)。

(3) **外の暗闇** : 最後の裁きの後、「サタンとその使いならびに滅びの子」が永遠に住む場所です (『福音原則』273頁、モルモン教『聖句ガイド』117頁) 復活後、サタン、その使いたちと滅びの子は「地獄」または、「外の暗闇」に留まるそうです。

モルモン教の「外の暗闇」は聖書の地獄の教えに最も近い概念です (『福音の原則』273頁、『モルモン書』アルマ40:13-14)。滅びの子とは誰のことでしょう? 「背教者」(モルモン教会脱会者) がそうだそうです。元モルモン教徒のすべてが滅びの子とは限らないということになっています⁴。

これとは対照的に、聖書は地獄は神の裁きの下にある者の行く先であると教えています。地獄は「永遠の火」(マタイ25:41)「火と硫黄の燃えている池」(黙示録21:8)、「底知れぬところ」(黙示録9:1、2)と描写し、「泣き叫んだり歯がみをしたるところ」(マタイ13:42)と特徴付けています。イエスはマルコ9:43で地獄の深刻さを教えています。「もし、あなたの片手が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろったままで地獄の消えない火の中に落ちこむよりは、片手になっても命に入る方がよい」(口語訳)(マタイ18:9参照)

聖書は天国が続く限り地獄も続くと教えています。永遠の命と永遠の刑罰を並列していることで両方の状態に終わりのないことを示しています(マタイ25:46)。聖書はまた地獄の刑罰には等級があることを教えています(マタイ10:15、11:21-24、ヘブル人への手紙10:29、黙示録20:11-15)。「神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪とともにさばかれるからである」(伝道の書12:14)

聖書は地獄を去ることができるとは述べていません(ルカ16:23、黙示録21:8)。聖書は死後にキリストを受け入れる機会が与えられるという「セカンドチャンス論」を支持しません(ヘブル人9:27、箴言11:7、ルカ16:26、ヨハネ8:24)。ラザロと金持ちの話で、イエスは現世で神が明らかにされたメッセージに 응답しない場合、死後に再び悔い改める機会はないと教えています(ルカ16:19-31)。(「キリストの福音を聞かずに死んだ人に『セカンドチャンス』があるのか?」参照)

ヨハネの黙示録21:8で、(キリストを)「信じない者」は火の池に投げ入れられる者の中に入っています。新約聖書のイエスに救われている信仰なしに死んだ、道徳的で立派な人も「信じない者」に含まれます。こういった者は聖書の神に反抗する生き方を示しました。

しかし、おくびょうな者、信じない者、忌むべき者、人殺し、姦淫を行う者、まじないをする者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者には、火と硫黄の燃えている池が、彼らの受くべき報いである。これが第二の死である。(黙示録21:8)

神はコリント第二6:2で「見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である」と述べています。『モルモン書』はコリント第二6:2と一致しています(アルマ34:32、モーサヤ15:24-27)。アルマ34:31は「まことに、現世の生涯は人が各自の勤めを果たす時期である」と述べています。

III 『モルモン書』は死後の世界についてどのように教えているのでしょうか?

『モルモン書』は死後二つの運命があることを教えています(ニーファイ第二28:22、ニーファイ第一15:35、アルマ42:16)。アルマ34:32-35、42:16は、死後わたしたちの運命は、永遠の刑罰かその反対の「永遠である幸福」かのいずれかと述べています。同書34:31では、「今があなた方の救いの時であり、救いの日である」と言っていることに注目してください。

『モルモン書』の下記の引用を参照ください。

そして見よ、悪魔はほかの人々にへつらい、「地獄はない」と告げ、「悪魔はいないので、わたしは悪魔ではない」と言う。悪魔はこのように彼らの耳にささやいて、決して逃げられない恐ろしい鎖で縛ってしまう。(2ニーファイ28:22)

事実、用意された場所が一つあります。まことに、それは私が話したあの恐ろしい地獄で、それを用意したのは悪魔です。ですから、人の最後の状態は、神の王国に住むか、そうでなければ、私が話したあの正義によって追い出されるかのどちらかです。(1ニーファイ15:35)

『モルモン書』はまた「決して終わることのない苦痛」を教えています(モーサヤ2:39-41)。モーサヤ2:39は「さて、私はあなたがたに言う。そのようなものには憐れみは及ばない。したがって、その者の最後の状態は、決して終わることのない苦痛に耐えることである」この教えは聖書の教えに一致しますが、現在のモルモン教会の公式な教えと一致しません。

モルモン教会は、『モルモン書』には「完全な福音」が載っていると主張しています(『モルモン書』の序文1段落、『教義と聖約』20:8-9、27:5)。ジョセフ・スミスは次のように述べています。「わたしは兄弟たちに言った。『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることによ

り、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる」（『モルモン書』の序文）『モルモン書』はモルモン教の重要な教理「天国には三つの階級または王国がある」、「一時的な地獄」、「人は進化して神々となることができる」を教えてないにもかかわらず、モルモン教会は「『モルモン書』はこの世で最も正確な書物」と主張することができるのでしょうか？

結論 聖書は死後の行く先は天国と地獄の二つしかないことを教えています。このことは、各自がこの地上にいる間に無償の永遠の命の賜り物を受け入れたか拒絶したかどうかにかきまわります（ヨハネ 3：16-17、使徒 16：31）。どこにも聖書では地獄が一時的な「浄化」される場所とか、星の栄光の王国に入る準備する場所などとは教えられていません。聖書は死後にイエス・キリストの福音を受け取ることができるという「セカンド・チャンス論」を支持しません（ヘブル人 9:27）。私たちの性質や選択肢は罪深く、私たちの誰もが神からの贈り物である神の恵みやキリストの福音を受けるにふさわしくありません（エペソ人 2：8-9）。『モルモン書』は死後行く先は二つしかないこと（ニーフアイ第二 28:22、ニーフアイ第一 15：35）、「決して終わることのない苦痛」（モーサヤ 2:39）を教えています。イエス自身が以下のグラフィックな描写で地獄の恐ろしさについて警告していました：「消えない火」（マタイ 3：12）、「地獄の刑罰」（マタイ 23：33）、「火の炉」（マタイ 13:42,50）「悪魔とその使いたちとのために用意されている永遠の火」（マタイ 25:41）。イエスは地獄の恐怖を教えられたとき、うそをつかれたと思いますか？

1 M.W.Cowan & S.R.Doty, "Are there Three Heavens?"(Utah Christian Publications, <http://www.utahchristianpub.org/publications/track01.htm>)

2 クリスマスの中には、旧約聖書の聖徒は黄泉の国に入ったが、イエスの昇天後、キリストにある信者は直接神のみ前に入ったと信じる人たちがいます。しかし、旧約聖書は旧約聖書の聖徒は死後、直接神のみ前に行ったと教えています（創世記 5:24、列王紀下 2:11、箴言 14:32、ルカ 16:25）。マタイ 22:32 は アブラハム、イサク、ヤコブは生きており、神と途切れることのない交わりを持っている事を暗示しています[Wayne Grudem, *Systematic Theology* (Leicester, IVP, 1994) p.821-822]。

3 Wayne Grudem, *Systematic Theology*, p.824

4 以前にモルモン教徒でしたが、現在クリスマスの友人は末日聖徒への伝道の奉仕をしています。彼は「滅びの子」と言われました。真理を受けその後、拒んで真理に反対の奉仕をしていることになっているからだと思います。

(See *Teachings of Joseph Smith*, p.358, quoted in *The Doctrine and Covenants Student Manual*, p.161)